

令和 3 年 5 月 18 日現在

機関番号：11301

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2016～2020

課題番号：16H06524

研究課題名（和文）多様な「個性」を創発する脳システムの統合的理解

研究課題名（英文）Integrative Research toward Elucidation of Generative Brain Systems for Individuality

研究代表者

大隅 典子（Osumi, Noriko）

東北大学・医学系研究科・教授

研究者番号：00220343

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 95,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究領域では、「個性」を客観的・科学的に理解することを目指した。A01項目では、乳児から成人までのヒトを対象とし、行動、認知、性格等における個性の発現について、主にその脳内基盤解明を試みた。一方、A02項目では、齧歯類等の実験動物を用い、生殖細胞形成や発生・発達過程にゲノム編集や母体への薬物暴露等、種々の介入が個体へ与える影響として、多様性の増大もしくは減少などの表現型に着目し、「個性」創発のメカニズムを理解することを目指した。A03項目では、種々の解析システム・解析装置の開発や技術提供、数理モデル構築を行った。上記の活動を国際的なデータシェアリングプラットフォームを構築して推進した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本領域では、研究成果の社会的還元をより一層意識して研究を進めるために、領域ウェブサイトにおける発信を頻度高く行うとともに、一般市民も対象とするニュースレターを年2回発行し、研究者や市民に配布した。さらに、計3回の市民公開講演会を開催して、第1回講演会の内容を基盤とした書籍を2020年に岩波書店より刊行し、第2回講演会の内容をもとに、ちくまプリマー新書を2021年6月に刊行予定としている。「個性」を人文社会学、生物学、理工学のような様々な視点から科学的に理解し、共有することを目指す本領域全体を取りまとめた成果の発信として、2021年8月に朝倉書店より『個性学入門：個性創発の科学』を刊行する。

研究成果の概要（英文）：In this research area, we aimed to understand "individuality" objectively and scientifically, and in Group A01, we attempted to elucidate the brain basis for the expression of individuality in behavior, cognition, and personality, mainly in humans from infant to adult. In Group A02, we aimed to understand the mechanism of the emergence of "individuality" by focusing on phenotypes such as increased or decreased diversity as an effect of various interventions, such as genome editing and maternal drug exposure, on individuals during gametogenesis and development using laboratory animals such as rodents. In Group A03, we developed various analytic systems and devices, provided technologies, and constructed mathematical models. The above activities were promoted through the establishment of an international data sharing platform.

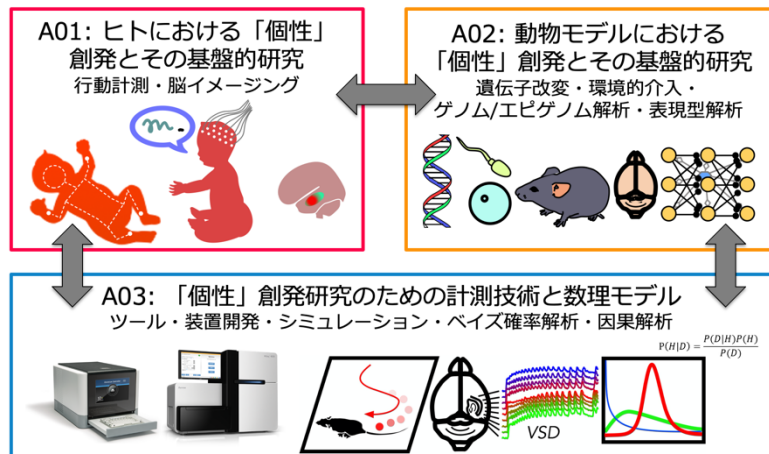
研究分野：神経発生学、分子生物学、DOHaD

キーワード：個性 パーソナリティ 脳内基盤 動物モデル 発生発達過程 多様性 数理モデル データシェアリングプラットフォーム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

人間の「個性」は、身長、体重、髪の毛や目の色のような身体的なものだけではなく、認知的能力やパーソナリティなど、脳神経系の機能に大きく関係する。心理学では、こうした認知的能力やパーソナリティの個人差について、知覚現象などに代表されるヒトとしての心的機能



の共通性と合わせて、個別性（「個性」）を法則的に理解することを試みてきた。しかし、ヒトの心的（認知的）機能の共通性については、関連する神経科学的研究との連携によってかなりのことが解明されてきたにもかかわらず、心的機能の個人差、すなわち「個性」の問題については現象の記述的説明レベルにとどまっており、その神経生物学的基盤については未だ十分には明らかにされていない。近年の主に動物を対象にした進化心理学的アプローチによる「個体差」の研究では、行動面の「個性」は単にランダムなばらつきではなく、環境への適応の一つとして機能していることが示唆されている。したがって、人間の「個性」も単なる「個人差」ではなく、進化的過程で形成された形質の表れと考えることにより、何らかの法則性がその背後に存在することが想定できる。一方で、規則性に基づいた多様性は、個人ごとに育まれて、多岐にわたる発達の道筋を生み出すと考えられた。いわゆる「定型発達」と「非定型発達」は、このような道筋の幅のなかで捉え直すことが重要であり、乳幼児期から青年期に発達した個性は、種に普遍的な特徴とともに次世代へ継承される部分があると予想した。

心と行動についての学問である心理学と並行して、脳科学もしくは神経科学は独自の発展を遂げてきた。ミクロのレベルでは神経活動の電氣的側面と化学的側面の理解が進み、マクロレベルでは人間の脳構築や脳活動を非侵襲的に画像として捉える技術も開発された。分子生物学が導入されることにより、脳構築や神経回路形成の遺伝的プログラムが明らかにされ、「光遺伝学」と呼ばれる最新技術により、特定の波長の光で人工的に神経活動を制御することも可能となった。他方、ヒト遺伝学の膨大な量の知見は、自閉症などの発達障害の遺伝的側面を浮き彫りにしつつある。脳神経系の機能や構築の理解は、人工知能やロボット作製にも活かされており、ブレインマシンインターフェースなどのような画期的な応用にも繋がっている。しかし、人間に、そして動物にもみられる「個性」（個体差）の問題については、脳・神経学的アプローチによっても未だ十分には検討されてこなかった。

一方、近年の情報科学分野の進展は、ハードウェアの革新と相まって著しく、いわゆる「ビッグデータ」の時代を迎えている。例えば、「個性」の源となる細胞の時空間的な遺伝子発現・エピゲノム変動（細胞の個性）情報を内包するゲノム配列情報とその解析に必要なストレージ量は、ヒト一人分で約1テラバイトと見積もられ、登録されている情報量は、すでに約2.5ペタバイトに達する。また、ヒト一人分の脳画像のデータ量は約10ギガバイトになる。このような大量のデータをどのように扱うかが大きな問題となっている。大量の実験データはクラウド上やデー

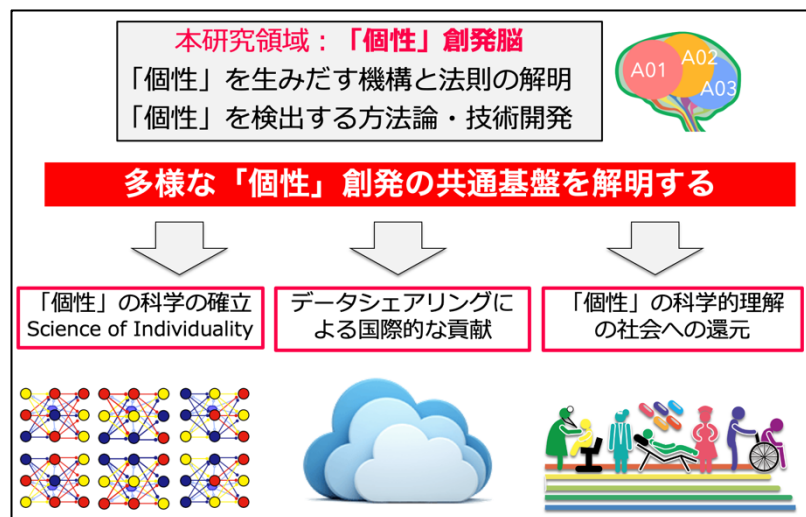
データベース上に蓄えられてシェアできるようになり、他の研究者がメタ解析を行うことも可能にした。したがって、これらの遺伝子情報、脳の形態的情報に、それに対応する表現型形質である認知・行動的情報を加えることで、ヒトの普遍性と固有性を、他の動物との共通性と差異を含めて、多面階層的に多様な領域から検討することが可能になると考えられた。

2. 研究の目的

本研究領域では、人文社会学分野・生物学分野・理工学分野における多様な専門性を有する研究者が密に連携することにより、「個性」を客観的・科学的に理解することを目指した。まず、

(A01 項目) 胎児から成人までのヒトを対象とし、行動、認知、性格等における個性の発現について、主にその脳内基盤を明らかにする。一方、(A02 項目) 遺伝的背景がヒトよりも均一である齧歯類等の実験動物を用い、生殖細胞形成や発生・発達過程にゲノム編集や母体への薬物暴露等、種々の介入を行うことによって生じるゆらぎが個体へ与える影響として、多様性の増大もしくは減少などの表現型に着目することにより、「個性」創発のメカニズムを理解する。A01 項目および A02 項目の推進にあたって、(A03 項目) 種々の解析システム・解析装置の開発や技術提供、数理モデル構築を行う。

上記の活動を国際的なデータシェアリングプラットフォームを構築して推進する。さらに、「個性」の研究にまつわる倫理的法的社会的課題(ELSI)に関して啓発するために、学会等における研究者向けのセミナーや、市民公開講演会を開催することを予定した。



3. 研究の方法

本研究領域では、人文社会学分野・生物学分野・理工学分野における多様な専門性を有する研究者が密に連携することにより、「個性」を客観的・科学的に理解することを目指した。まず、

(A01 項目) 主として乳児から成人までのヒトを対象とし、行動、認知、性格等における個性の発現について、主にその脳内基盤を明らかにすることを試みた。一方、(A02 項目) 遺伝的背景がヒトよりも均一である齧歯類等の実験動物を用い、生殖細胞形成や発生・発達過程にゲノム編集や母体への薬物暴露等、種々の介入を行うことによって生じるゆらぎが個体へ与える影響として、多様性の増大もしくは減少などの表現型に着目することにより、「個性」創発のメカニズムを理解することを目指した。A01 項目および A02 項目の推進にあたって、(A03 項目) 種々の解析システム・解析装置の開発や技術提供、数理モデル構築を行った。上記の活動を国際的なデータシェアリングプラットフォームを構築して推進した。

4. 研究成果

本領域では、人間の「個性」がどのように創発するのかについて科学的な学術分野を切り拓くことを目指し、A01、A02、A03 項目に参画する研究者の有機的な連携により研究を推進した。

(1) 各項目の研究成果

A01 項目では、ヒトを対象として、行動、認知、パーソナリティ等における「個性」の発現について、主にその脳内基盤を明らかにするという観点で研究を展開した。乳幼児の脳梁の形態形成が個の性質として決定される成分と、発達的に変化する成分によって構成されることや（投稿中）、思春期初期の第二言語習得において、脳活動に男女差があることが明らかにされた（*Front Hum Neurosci*, 2018）。認知的負荷時における皮質活動の個人差について fNIRS で測定した結果、認知スタイルと前頭・側頭部の活動での側性化に一定の関係が得られた（投稿準備中）。約 1,000 人分のゲノム・問診データから、*VMAT1* 遺伝子の遺伝子型(Thr136Ile) および性別、人とのつながり等の相互作用が各人のうつ傾向に影響を与えることや、*VMAT1* 遺伝子多型の平衡選択による維持がわかった（*BMC Evol Bio*, 2019; 東北大学教養教育院叢書「大学と教養」第4巻 多様性と異文化理解, 2021）。言語の神経基盤の個人差について、ブローカ野でも言語関連部位は個人差が大きいことが明らかにされた（投稿準備中）。ASD 者の感覚の予測/後測や感覚間相互作用等に関し、ASD 者では予測についての大きな個人差や、一方、触覚が身体外に生じにくい傾向、運動の苦手さとの関連が示唆された（*Sci Rep*, 2020）。ASD 者の当事者研究をもとにした書籍が刊行された（岩波書店, 2020）。



A02 項目は、遺伝的背景がヒトよりも均一である齧歯類を主に使い、種々の介入を行うことによって生じるゆらぎが個体へ与える影響を調べるという観点から、「個性」創発のメカニズムを理解することを目的として展開された。胎生期薬物暴露によるけいれん感受性増加という人為的負の個性が、自発的運動によって表現型が改善されることが示された（*PNAS*, 2018）。脳の性分化に関し、最上流遺伝子として転写因子 *Ptf1a* が同定され（*Cell Rep*, 2018）、自閉症関連遺伝子 *AUTS2* の機能が明らかになった（*iScience*, 2020）。個性研究用行動解析装置、及びデータマイニング技術による行動パターン微細変化解析技術を開発し、脳の発生・発達・成熟過程に介入する実験手法として、遺伝子発現の新規光制御技術の開発を行った（*Cell Rep*, 2018; *iScience*, 2020）。父加齢（環境因子）による「個性」創発のゆらぎに関し、マウス母仔分離超音波発声（赤ちゃんの泣き声に相当）の程度が、成体期の社会性や空間学習と、それぞれ正、負に相関することを見出し（*PONE*, 2017）、父加齢によるエピジェネティックな変化（*EMBO Rep*, 2021）により非定型発達個体が増加することが示された（*bioRxiv*, 2019, 投稿中）。鳴禽の発声パターン個体差発達について、発声練習による神経活動依存的に発現が制御される遺伝子群を同定し、発現調節領域も明らかにした（*PLoS Biol*, 2018）。

A03 項目は、「個性」創発研究のための種々の解析システム・解析装置の開発や技術提供、数理モデル構築を行い、A01 項目のヒトと A02 項目の動物モデルの橋渡し、両者に共通の「個性」創発メカニズムの理解を目的として研究を展開することにより、領域内研究者のビッグデータ解析が推進された。融合研究に共用された解析技術等として、領域で購入した単一細胞遺伝子解析用共通機器を用いた細胞の個性計測技術開発、膜電位感受性色素を用いた光計測による脳内神経回路機構計測評価系と行動様式プロファイリング系、脳波などの時系列データから振動成分を抽出する数理モデルに基づく統計解析手法、無限混合分布とノンパラメトリックベイズ法を用いたニューラルデコーディング手法、齧歯類および霊長類に対する、複数の深度センサから得られる 3次元ポイントクラウド情報を用いた身体部位の認識・追跡のためのデータ収集やアルゴリズム技術、個性を発見するための、データの低次元化・可視化やクラスタリングアルゴリズムなどが挙げられる。さらに、ゲノム編集法により作製された種々の遺伝子改変マウス、高速・高感度な緑色カルシウムセンサーと組み換え酵素依存的に発現誘導可能なノックインマウスが作製され、領域内の共同研究が推進された。また、個性を司る神経活動と末梢臓器活動について、

大規模電気生理計測および数理解析を行い、記憶や情動に関与する神経活動に関する知見が得られた (*Nat Neurosci*, 2018, *Cell Rep*, 2019; *Sci Rep*, 2019; *Cell Rep*, 2021)。

領域における研究推進の間に、「脳システム全体、個人の存在全体における個人差、個性をどのようなものと捉えるのか」という点について、参画する研究者それぞれの研究の中で追求するだけでなく、領域会議等の折のディスカッションでも取り上げてきた。「個性」を人文社会学、生物学、理工学のような視点から科学的に理解し、共有することを目指す本領域全体からの発信として、2021年8月に朝倉書店より『個性学入門：個性創発の科学』（保前文高・大隅典子編）を刊行予定となっている。「個性」を定量的に扱い、実験的に「個性」の源を探る方法論をまとめた上で、「個性」を知ることによって拓かれる新たな世界を見通すことを目指した本書を通じて、一般の読者、脳科学や生物学、心理学、情報学などの学部生、大学院生、研究者に「個性学」を周知し、多様な生き方を認め合う今後の社会で1人ずつに向き合うための基盤を築く学問として発展させることが期待される。



(2) データシェアリングプラットフォーム

本領域では国際連携活動の一貫として、マウス・ラット等齧歯類の音声コミュニケーションのデータを公開するためのデータシェアリングプラットフォーム (DSP; <http://data-share.koseisouhatsu.jp>) を公開した。この DSP に登録されたデータは、RIKEN META DATABASE と自動連携し、パスツール研究所が運用しているマウス音声の DSP である mouseTube とのリンクが可能となっている。このような取り組みは、実験の再現性の向上や、生物医学と情報科学の連携を加速させるためにも重要である。登録されたデータを用いて、今後、理論研究や自動解析ツールの開発等のオープンサイエンス促進が期待される。普及を促進するために DSP の利用方法を動画付きで記すとともに (<https://sites.google.com/view/vocalcommuj/home>)、新学術領域「共創言語進化」と本領域の領域間共同研究として開発した齧歯類音声の解析ソフト USVSEG (*PLoS ONE*, 2020) を提供した。

(3) アウトリーチ

また、本領域では、研究成果の社会的還元をより一層意識して研究を推進し、領域ウェブサイトにおける発信を頻度高く行うとともに (2021年5月14日時点で累計 137,490 PV)、一般市民も対象とするニュースレターを年2回発行し、研究者や市民等に広く配布した。さらに、計3回の市民公開講演会を開催し、第1回講演会の内容を基盤とした書籍は、前述のように、すでに岩波書店より刊行された。第2回講演会の内容をもとにした『壊れた脳と生きる—高次脳機能障害「名もなき苦しみ」の理解と支援』（ちくまプリマー新書）という書籍が、2021年6月に刊行予定となっている。

平成28年度採択新学術領域
「個性」創発脳

English

ホーム 「個性」創発脳とは 研究・組織・連携 活動 業績 お問い合わせ

2021年4月23日 **リリース**
公募研究A01河田雅圭の著書『東北大学教養教育院叢書「大学と教養」第4巻 多様性と異文化理解』がweb公開されました
DC1_202221292SUZUKL_hyoka1_05121830.pdf

2021年3月28日 **リリース**
領域終了の御礼メッセージ

2021年3月24日 **リリース**
記憶の情報処理を担うシナプス伝達を実測
公募研究A03佐々木 拓哉の研究がCell Reportsに掲載されました

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計77件（うち査読付論文 77件 / うち国際共著 15件 / うちオープンアクセス 49件）

1. 著者名 Thongkorn,S.,Kanlayaprasit,S.,Panjabud,P.,Saeliw,T.,Jantheang,T.,Kasitipradit,K.,Sarobol,S.,Jindatip,D.,Hu,VW.,Tencornao,T.,Kikkawa,T.,Sato,T.,Osumi,N.,Sarachana,T.	4. 巻 -
2. 論文標題 Sex differences in the effects of prenatal bisphenol A exposure on autism-related genes and their relationships with the hippocampus functions.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sci Rep.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-020-80390-2.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Yoshizaki, K., Kimura, R., Kobayashi, H., Oki, S., Kikkawa, T., Mai, L., Koike, K., Mochizuki, K., Inada, H., Matsui, Y., Kono, T., Osumi, N.	4. 巻 -
2. 論文標題 Paternal age affects offspring via an epigenetic mechanism involving REST/NRSF.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 EMBO Rep.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15252/embr.202051524.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Labuguen,R., Matsumoto, J., Blanco, N.S., Nishimaru, H., Nishijo, H., Takada,M., Go,Y., Inoue, K., Shibata, T.	4. 巻 14
2. 論文標題 MacaquePose: A Novel “ In the Wild ” Macaque Monkey Pose Dataset for Markerless Motion Capture	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Behavioral Neuroscience	6. 最初と最後の頁 1,8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fnbeh.2020.581154	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Labuguen,R.,Blanco, N.S.,Kogami, T.,Ingco, W,E,M., Shibata, T.	4. 巻 -
2. 論文標題 Performance Evaluation of Markerless 3D Skeleton Pose Estimates with Pop Dance Motion Sequence	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IEEE Explore	6. 最初と最後の頁 1,7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/ICIEVicIVPR48672.2020.9306581	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Labuguen R, Matsumoto J, Negrete SB, Nishimaru H, Nishijo H, Takada M, Go Y, Inoue KI, Shibata T.	4. 巻 14
2. 論文標題 MacaquePose: A Novel "In the Wild" Macaque Monkey Pose Dataset for Markerless Motion Capture.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Behavioral Neuroscience	6. 最初と最後の頁 581154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnbeh.2020.581154	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi H., Okada K., Aoyagi K., Andoh-Noda T., Okano H., Murotri AR., Nakashima K.	4. 巻 -
2. 論文標題 MeCP2 controls neural stem cell fate specification through miR-199a-mediated inhibition of BMP5mad	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cell Reports	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takouda J., Katada S., Imamura T. and Nakashima K.	4. 巻 -
2. 論文標題 SoxE group transcription factor Sox8 promotes astrocytic differentiation of neural	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pharmacology Research & Perspectives	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/prp2.749	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hamazaki N, Kyogoku H, Araki H, Miura F,	4. 巻 589
2. 論文標題 Reconstitution of the oocyte transcriptional	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nature	6. 最初と最後の頁 883-897
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41586-020-3027-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Adachi T, Miyashita S, Yamashita M, Shimoda M, Okonechnikov K, Chavez L, Kool M, Pfister SM, Inoue T, Kawauchi D, Hoshino M.	4. 巻 0468-20
2. 論文標題 Notch Signaling between Cerebellar Granule Cell Progenitors	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 eNeuro.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1523/ENEURO.0468-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ogata S, Hashizume K, Hayase Y, Kanno Y, Hori K, Balan S, Yoshikawa T, Takahashi H, Taya S, Hoshino M.	4. 巻 26(3)
2. 論文標題 Potential involvement of DSCAML1 mutations in neurodevelopmental disorders	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Genes Cells.	6. 最初と最後の頁 136-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/gtc.12831.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakagawa, T., Hattori, S., Nobuta, R., Kimura, R., Nakagawa, M., Matsumoto, M., Nagasawa, Y., Funayama, R., Miyakawa, T., Inada, T., Osumi, N., Nakayama, KI., Nakayama, K	4. 巻 23
2. 論文標題 The Autism-Related Protein SETD5 Controls Neural Cell Proliferation through Epigenetic Regulation of rDNA Expression.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 iScience.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.isci.2020.101030.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tatehana, M., Kimura, R., Mochizuki, K., Inada, H., Osumi, N.	4. 巻 15
2. 論文標題 Comprehensive histochemical profiles of histone modification in male germline cells during meiosis and spermiogenesis: Comparison of young and aged testes in mice.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0230930.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Casingal, C.R., Kikkawa, T., Inada, H., Sasaki, Y., Osumi, N.	4. 巻 -
2. 論文標題 Identification of FMRP target mRNAs in the developmental brain: FMRP might coordinate Ras/MAPK, Wnt/ -catenin, and mTOR signaling during corticogenesis.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Mol Brain	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13041-020-00706-1.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kutscher LM, Okonechnikov K, Batora NV, Clark J, Silva PBG, Vouri M, van Rijn S, Sieber L, Statz B, Gearhart MD, Shiraishi R, Mack N, Orr BA, Korshunov A, Gudenas BL, Smith KS, Mercier AL, Ayrault O, Hoshino M, Kool M, von Hoff K, Graf N, Fleischhack G, Bardwell VJ, Pfister SM, Northcott PA, Kawauchi D.	4. 巻 34(17-18)
2. 論文標題 Functional loss of a noncanonical BCOR-PRC1.1 complex accelerates SHH-driven medulloblastoma formation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Genes Dev.	6. 最初と最後の頁 1161-1176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/gad.337584	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hiraga K, Inoue YU, Asami J, Hotta M, Morimoto Y, Tatsumoto S, Hoshino M, Go Y, Inoue T.	4. 巻 3(1)
2. 論文標題 Redundant type II cadherins define neuroepithelial cell states for cytoarchitectonic robustness	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Commun Biol.	6. 最初と最後の頁 574
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s42003-020-01297-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita M, Owa T, Shiraishi R, Adachi T, Ichijo K, Taya S, Miyashita S, Hoshino M.	4. 巻 25(12)
2. 論文標題 The role of SCF Skp2 and SCF -TrCP1/2 in the cerebellar granule cell precursors	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Genes Cells.	6. 最初と最後の頁 796-810
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/gtc.12813	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamashiro K, Hori K, Lai ESK, Aoki R, Shimaoka K, Arimura N, Egusa SF, Sakamoto A, Abe M, Sakimura K, Watanabe T, Uesaka N, Kano M, Hoshino M.	4. 巻 23(12)
2. 論文標題 AUTS2 Governs Cerebellar Development, Purkinje Cell Maturation, Motor Function and Social Communication	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 iScience.	6. 最初と最後の頁 101820
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.isci.2020.101820	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 HayaseY, AmanoS, HashizumeK, TominagaT, MiyamotoH, KannoY, Ueno-InoueY, InoueT, YamadaM, OgataS, BalanS, HayashiK, MiuraY, TokudomeK, OhnoY, NishijoT, MomiyamaT, Yanagawa Y, Takizawa A, Mashimo T, Serikawa T, Sekine A, Nakagawa E, Takeshita E, Yoshikawa T, Waga C, Inoue K, Goto YI, Nabeshima Y, Ihara N, Yamakawa K, Taya S, Hoshino M.	4. 巻 30;8(1)
2. 論文標題 Down syndrome cell adhesion molecule like-1 (DSCAML1) links the GABA system and seizure susceptibility	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Acta Neuropathol Commun.	6. 最初と最後の頁 206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40478-020-01082-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryohei Shibue and Fumiyasu Komaki	4. 巻 16(3)
2. 論文標題 Deconvolution of calcium imaging data using marked point processes	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLOS Computational Biology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pcbi.1007650	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Michiko Okudo and Fumiyasu Komaki	4. 巻 67(2)
2. 論文標題 Bayes extended estimators for curved exponential families	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IEEE Transactions on Information Theory	6. 最初と最後の頁 1088-1098
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/TIT.2020.3035027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hori K, Yamashiro K, Nagai T, Shan W, Egusa S, Shimaoka K, Kuniishi H, Sekiguchi M, Go Y, Tatsumoto S, Yamada M, Shiraiishi R, Kanno K, Miyashita S, Sakamoto A, Abe M, Sakimura K, Sone M, Sohya K, Kunugi H, Wada K, Yamada M, Yamada K, Hoshino M.	4. 巻 23
2. 論文標題 AUTS2 regulation of synapses for proper synaptic inputs and social communication	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 iScience	6. 最初と最後の頁 101183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.isci.2020.101183	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiraga K, Inoue YU, Asami J, Hotta M, Morimoto Y, Tatsumoto S, Hoshino M, Go Y, Inoue T.	4. 巻 3
2. 論文標題 Redundant type II cadherins define neuroepithelial cell states for cytoarchitectonic robustness.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Communications Biology	6. 最初と最後の頁 574
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s42003-020-01297-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 *Imayoshi, I., Tabuchi, S., Matsumoto, M., Kitano, S., Miyachi, H., *Kageyama, R. and Yamanaka, A.	4. 巻 10
2. 論文標題 Light-induced silencing of neural activity in Rosa26 knock-in and BAC transgenic mice conditionally expressing the microbial halorhodopsin eNpHR3.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sci Rep.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-59984-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Seymour, P.A., Collin, C.A., Egeskov-Madsen, A.R., Jorgensen, M.C., Shimojo, H., Imayoshi, I., de Lichtenberg, K.H., Kopan, R., Kageyama, R. and Serup, P.	4. 巻 52
2. 論文標題 Jag1 Modulates an Oscillatory Dll1-Notch-Hes1 Signaling Module to Coordinate Growth and Fate of Pancreatic Progenitors.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Dev Cell.	6. 最初と最後の頁 731-747
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.devcel.2020.01.015.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nguyen, R., Venkatesan, S., Binko, M., Yoon Bang, J., Cajanding, J.D., Briggs, C., Sargin, D., Imayoshi, I., Lambe, E.K. and Chul Kim, J.	4. 巻 40
2. 論文標題 Cholecystokinin-expressing Interneurons of the Medial Prefrontal Cortex Mediate Working Memory Retrieval.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Neurosci.	6. 最初と最後の頁 2314-2331
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1523/JNEUROSCI.1919-19.2020.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamada, M., Nagasaki, C.S., Ozawa, T. and *Imayoshi, I.	4. 巻 152
2. 論文標題 Light-mediated control of gene expression in mammalian cells.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neurosci Res.	6. 最初と最後の頁 66-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neures.2019.12.018.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamada, M., Nagasaki, C.S., Suzuki, Y., Hirano, Y. and *Imayoshi, I.	4. 巻 23
2. 論文標題 Optimization of light-inducible Gal4/UAS gene expression system in mammalian cells.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 iScience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.isci.2020.101506	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiraishi RD, Miyashita S, Yamashita M, Adachi T, Shimoda MM, Owa T, Hoshino M	4. 巻 34
2. 論文標題 Expression of transcription factors and signaling molecules in the cerebellar granule cell development.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Gene Expr Patterns.	6. 最初と最後の頁 119068
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.gep.2019.119068	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda Takeru, Komaki Fumiyasu	4. 巻 137
2. 論文標題 Empirical Bayes matrix completion	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Computational Statistics & Data Analysis	6. 最初と最後の頁 195-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cstda.2019.02.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Araki Kenji, Hirose Yoshihiro, Komaki Fumiyasu	4. 巻 35
2. 論文標題 Paired comparison models with age effects modeled as piecewise quadratic splines	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Forecasting	6. 最初と最後の頁 733-740
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijforecast.2018.02.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sueda, R., *Imayoshi, I. (equal contribution), Harima, Y. and *Kageyama, R.	4. 巻 33
2. 論文標題 High Hes1 expression and resultant Ascl1 suppression regulate quiescent versus active neural stem cells in the adult mouse brain.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Genes Dev	6. 最初と最後の頁 511-523
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/gad.323196.118	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Li, W.L., Chu, M.W., Wu, A., Suzuki, Y., *Imayoshi, I (co-corresponding) and *Komiyama T	4. 巻 7
2. 論文標題 Adult-born neurons facilitate olfactory bulb pattern separation during task engagement	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 eLife	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7554/eLife.33006.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamada, M., Suzuki, Y., Nagasaki, C.S., Okuno, H. and Imayoshi, I	4. 巻 25
2. 論文標題 Light Control of the Tet Gene Expression System in Mammalian Cells	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cell Reports	6. 最初と最後の頁 487-500
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.celrep.2018.09.026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takasu Yuya, Yano Keisuke, Komaki Fumiyasu	4. 巻 138
2. 論文標題 Scoring rules for statistical models on spheres	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Statistics & Probability Letters	6. 最初と最後の頁 111-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.spl.2018.02.054	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoko Tominaga, Makiko Taketoshi, Takashi Tominaga	4. 巻 12
2. 論文標題 Overall Assay of Neuronal Signal Propagation Pattern With Long-Term Potentiation (LTP) in Hippocampal Slices From the CA1 Area With Fast Voltage-Sensitive Dye Imaging	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Cellular Neuroscience	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fncel.2018.00389	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Riichi Kajiwara, Yoko Tominaga, Takashi Tominaga	4. 巻 13
2. 論文標題 Network Plasticity Involved in the Spread of Neural Activity Within the Rhinal Cortices as Revealed by Voltage-Sensitive Dye Imaging in Mouse Brain Slices	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Cellular Neuroscience	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fncel.2019.00020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoko Tominaga, Makiko Taketoshi, Naoko Maeda, Takashi Tominaga	4. 巻 e59692
2. 論文標題 Wide-field Single-photon Optical Recording in Brain Slices Using Voltage-sensitive Dye.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of visualized experiments : JoVE	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3791/59692	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda T., Irie T., Katsurabayashi S., Hayashi Y., Nagai T., Hamazaki N., Adefuin A.M.D., Miura F., Ito T., Kimura H., Shirahige K., Takeda T., Iwasaki K., Imamura T., Nakashima, K.	4. 巻 101
2. 論文標題 Pioneer Factor NeuroD1 Rearranges Transcriptional and Epigenetic Profiles to Execute Microglia-Neuron	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neuron	6. 最初と最後の頁 472-485 e7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuron.2018.12.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakajo M., Uezono N., Nakashima H., Wake H., Komiya S., Nishibori M., Nakashima, K.	4. 巻 141
2. 論文標題 Therapeutic time window of anti-high mobility group box-1 antibody administration in mouse model of spinal	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neurosci Res	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neures.2018.03.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ujiie, Y., Asai, Y., Wakabayashi A.	4. 巻 236
2. 論文標題 Individual Differences and the Effect of Face Configuration Contexts in the McGurk Effect	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Experimental Brain Research	6. 最初と最後の頁 973-984
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00221-018-5188-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugiura L, Hata M, Matsuba Kurita H, Uga M, Tsuzuki D, Dan I, Hagiwara H and Homae	4. 巻 12
2. 論文標題 Explicit performance in girls and implicit processing in boys: A simultaneous fNIRS-ERP study on second language syntactic learning in young adolescents.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Human Neuroscience 1	6. 最初と最後の頁 1 - 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2018.00062	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河村康佑、若林明雄	4. 巻 15
2. 論文標題 他者の痛み経験時の事象と表情が観察者の痛み理解と不快感に与える影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 認知心理学研究	6. 最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5265/jcogpsy.15.13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakajo M, Uezono N, Nakashima H, Wake H, Komiya S, Nishibori M, Nakashima K:	4. 巻 -
2. 論文標題 Therapeutic time window of anti-high mobility group box-1 antibody administration in mouse model of spinal cord injury.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Neurosci Res	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neures.2018.03.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakai A, Matsuda T, Doi H, Nagaishi Y, Kato K, Nakashima K	4. 巻 -
2. 論文標題 Ectopic neurogenesis induced by prenatal antiepileptic drug exposure augments seizure susceptibility in adult mice.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proc Natl Acad Sci USA	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.1716479115	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Uezono N, Zhu Y, Y, Matsuda T, Nakajo M, Abematsu M, Setoguchi T, Mori S, Takahashi HK, Komiya S, Nishibori M, Nakashima K:	4. 巻 -
2. 論文標題 Prior Treatment with Anti-High Mobility Group Box-1 Antibody Boosts Human Neural Stem Cell Transplantation-Mediated Functional Recovery After Spinal Cord Injury.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Stem Cells	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/stem.2802	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kimura A, Matsuda T, Sakai A, Murao N, Nakashima K	4. 巻 247
2. 論文標題 HMGB2 expression is associated with transition from a quiescent to an activated state of adult neural stem cells.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Dev Dyn	6. 最初と最後の頁 229 238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/dvdy.24559	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Zhu Y, Uezono N, Yasui T, Nakashima K	4. 巻 247
2. 論文標題 Neural stem cell therapy aiming at better functional recovery after spinal cord injury.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Dev Dyn	6. 最初と最後の頁 75 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/dvdy.24558	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kawamura Y, Katada S, Noguchi H, Yamamoto H, Sanosaka T, Iihara K, Nakashima K	4. 巻 59
2. 論文標題 Synergistic induction of astrocytic differentiation by factors secreted from meninges in the mouse developing brain.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 FEBS lett	6. 最初と最後の頁 3709-3720
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/1873-3468.12881	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sanosaka T, Imamura T, Hamazaki N, Chai M, Igarashi K, Ideta-Otsuka M, Miura F, Ito T, Fujii N, Ikeo K, Nakashima K	4. 巻 20
2. 論文標題 DNA Methylome Analysis Identifies Transcription Factor-Based Epigenomic Signatures of Multilineage Competence in Neural Stem/Progenitor Cells.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Cell Rep	6. 最初と最後の頁 2992-3003
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.celrep.2017.08.086.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Brulet R, Matsuda T, Zhang L, Miranda C, Giacca M, Kaspar BK, Nakashima K, Hsieh J	4. 巻 8
2. 論文標題 NEUROD1 instructs neuronal conversion in non-reactive astrocytes.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Stem Cell Reports	6. 最初と最後の頁 1506-1515
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.stemcr.2017.04.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takouda J, Katada S, Nakashima K	4. 巻 93
2. 論文標題 Emerging mechanisms underlying astrogenesis in the developing mammalian brain.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proc Jpn Acad Ser B Phys Biol Sci	6. 最初と最後の頁 386-398
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2183/pjab.93.024	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasui T, Uezono N, Nakashima H, Noguchi H, Matsuda T, Noda-Andoh T, Okano H, Nakashima K:	4. 巻 8
2. 論文標題 Hypoxia epigenetically confers astrocytic differentiation potential on human pluripotent cell-derived neural precursor cells.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Stem Cell Reports	6. 最初と最後の頁 1743-1756
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.stemcr.2017.05.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Owa T, Taya S, Miyashita S, Yamashita M, Adachi T, Yamada K, Yokoyama M, Aida S, Nishioka T, Inoue YU, Goitsuka R, Nakamura T, Inoue T, Kaibuchi K, Hoshino M:	4. 巻 38
2. 論文標題 Meis1 Coordinates Cerebellar Granule Cell Development by Regulating Pax6 Transcription, BMP Signaling and Atoh1 Degradation.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Neurosci	6. 最初と最後の頁 1277-1294
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1523/JNEUROSCI.1545-17.2017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Miyashita S, Adachi T, Yamashita M, Sota T, Hoshino M:	4. 巻 147
2. 論文標題 Dynamics of the cell division orientation of granule cell precursors during cerebellar development.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Mech Dev	6. 最初と最後の頁 1 - 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.mod.2017.06.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hanai S, Sukigara S, Dai H, Owa T, Horike SI, Otsuki T, Saito T, Nakagawa E, Ikegaya N, Kaido T, Sato N, Takahashi A, Sugai K, Saito Y, Sasaki M, Hoshino M, Goto YI, Koizumi S, Itoh M:	4. 巻 187
2. 論文標題 Pathologic Active mTOR Mutation in Brain Malformation with Intractable Epilepsy Leads to Cell-Autonomous Migration Delay.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Am J Pathol	6. 最初と最後の頁 1177-1185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajpath.2017.01.015.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hori K, Hoshino M	4. 巻 7
2. 論文標題 Neuronal Migration and AUTS2 Syndrome.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Brain Sci	6. 最初と最後の頁 E54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/brainsci7050054	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue YU, Morimoto Y, Hoshino M, Inoue T	4. 巻 -
2. 論文標題 Generation of Pax6-IRES-EGFP knock-in mouse via the cloning-free CRISPR/Cas9 system to reliably visualize neurodevelopmental dynamics.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Neuroscience Research	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neures.2018.01.007.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mogi A, Yomoda R, Kimura S, Tsushima C, Takouda J, Sawauchi M, Maekawa T, Ohta H, Nishino S, Kurita M, Mano N, Osumi N, Moriya T	4. 巻 6
2. 論文標題 Entrainment of the Circadian Clock in Neural Stem Cells by Epidermal Growth Factor is Closely Associated with ERK1/2-mediated Induction of Multiple Clock-related Genes.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Neuroscience	6. 最初と最後の頁 45-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuroscience.2018.02.045.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kikkawa T, Casingal CR, Chun SH, Shinohara H, Hiraoka K and Osumi N	4. 巻 -
2. 論文標題 The role of Pax6 in brain development and its impact on pathogenesis of autism spectrum disorder.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Brain Research	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.brainres.2018.02.041	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato T, Kikkawa T, Saito T, Itoi K, Osumi N	4. 巻 59
2. 論文標題 Organizing activity of Fgf8 on the anterior telencephalon.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Dev Growth Differ	6. 最初と最後の頁 701-712
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/dgd.12411	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshizaki K, Koike K, Kimura R, Osumi N:	4. 巻 12
2. 論文標題 Early postnatal vocalizations predict sociability and spatial memory in C57BL/6J mice: Individual differences in behavioral traits emerge early in development.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 e0186798
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0186798	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tatsumoto S, Go Y, Fukuta K, Noguchi H, Hayakawa T, Tomonaga M, Hirai H, Matsuzawa T, Agata K, Fujiyama A:	4. 巻 7
2. 論文標題 Direct estimation of de novo mutation rates in a chimpanzee parent-offspring trio by ultra-deep whole genome sequencing.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 13561
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-13919-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Li W, Chu MW, Wu A, Suzuki Y, Imayoshi I and Komiyama T	4. 巻 7
2. 論文標題 Adult-born neurons facilitate olfactory bulb pattern separation during task engagement.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 eLife	6. 最初と最後の頁 e33006
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7554/eLife.33006.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Suzuki Y and Imayoshi I	4. 巻 12
2. 論文標題 Network analysis of exploratory behaviors of mice in a spatial learning and memory task.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PLoS One.	6. 最初と最後の頁 e0180789
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shibue R, Komaki F:	4. 巻 118
2. 論文標題 Firing rate estimation using infinite mixture models and its application to neural decoding.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Neurophysiology	6. 最初と最後の頁 2902_2913
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1152/jn.00818.2016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda T, Komaki F:	4. 巻 29
2. 論文標題 Multivariate time series decomposition into oscillation components.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Neural Computation	6. 最初と最後の頁 2055_2075
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1162/NECO_a_00981	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kikkawa T, Takahashi M, Osumi N	4. 巻 78
2. 論文標題 Electroporation in the Rodent Embryonic Brain Using Whole Embryo Culture System.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Curr Protoc Neurosci.	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cpns.21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshizaki K, Furuse, T, Kimura R, Tucci V, Kaneda H, Wakana S and Osumi N	4. 巻 11
2. 論文標題 Paternal Aging Affects Behavior in Pax6 Mutant Mice: A Gene/Environment Interaction in Understanding Neurodevelopmental Disorders.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0166665
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0166665	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Lo Van A, Sakayori N, Hachem M, Belkouch M, Picq M, Lagarde M, Osumi N, Bernoud-Hubac N.	4. 巻 130
2. 論文標題 Mechanisms of DHA transport to the brain and potential therapy to neurodegenerative diseases.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Biochimie	6. 最初と最後の頁 163-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.biochi.2016.07.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakayori, N., Tokuda, H., Yoshizaki, K., Kawashima, H., Innis, SM., Shibata, H. and Osumi, N	4. 巻 240
2. 論文標題 Maternal nutritional imbalance between linoleic acid and alpha-linoleic acid increase offspring's anxious behavior with a sex-dependent manner in mice	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Tohoku J Exp Med.	6. 最初と最後の頁 31-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.240.31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Amano M, Nishioka T, Yura Y, Kaibuchi K	4. 巻 72
2. 論文標題 Identification of Protein Kinase Substrates by the Kinase-Interacting Substrate Screening (KISS) Approach.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Curr Protoc Cell Biol.	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cpcb.8.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue YU, Inoue T	4. 巻 9
2. 論文標題 Brain enhancer activities at the gene-poor 5p14.1 utism-associated locus.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Sci Rep.	6. 最初と最後の頁 31227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/srep31227	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamazaki N, Nakashima K, Imamura T.	4. 巻 1543
2. 論文標題 Manipulation of Promoter-Associated Noncoding RNAs in Mouse Early Embryos for Controlling Sequence-Specific Epigenetic Status.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Methods Mol Biol	6. 最初と最後の頁 271-282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-1-4939-6716-2_16.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi H, Kimura A, Murao N, Namihira M, Nakashima K.	4. 巻 3
2. 論文標題 Prenatal deletion of DNA methyltransferase 1 in neural stem cells impairs neurogenesis and causes anxiety-like behavior in adulthood.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Neurogenesis (Austin)	6. 最初と最後の頁 e1232679.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/23262133.2016.1232679	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda, T., Kitajo, K., Yamaguchi, Y., and Komaki, F.	4. 巻 152
2. 論文標題 A point process modeling approach for investigating the effect of online brain activity on perceptual switching,	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 NeuroImage	6. 最初と最後の頁 50-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuroimage.2017.02.068	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda, T. and Komaki, F.	4. 巻 29
2. 論文標題 Time series decomposition into oscillation components and phase estimation	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Neural Computation	6. 最初と最後の頁 332-367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1162/NECO_a_00916.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshida K, Go Y, Kushima I, Toyoda A, Fujiyama A, Imai H, Saito N, Iriki A, Ozaki N, Isoda M.	4. 巻 2
2. 論文標題 Single-neuron and genetic correlates of autistic behavior in macaque	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Science Advances	6. 最初と最後の頁 e1600558
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1126/sciadv.1600558	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計140件 (うち招待講演 71件 / うち国際学会 49件)

1. 発表者名 Blanco, N.S., Labuguen, R., Matsumoto, J., Go, Y., Inoue, K., Shibata, T.
2. 発表標題 Multiple Monkey Pose Estimation Using OpenPose
3. 学会等名 International workshop (VAIB) in an international conference (ICPR) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島 欽一
2. 発表標題 ミクログリアからニューロンへの直接分化転換による脳梗塞治療法の開発
3. 学会等名 STROKE2021 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島 欽一
2. 発表標題 レット症候群原因因子MeCP2のマイクロRNAを介した神経幹細胞分化制御機構の解明
3. 学会等名 第47回日本毒性学会学術年会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大隅 典子
2. 発表標題 個性を科学するためのチャレンジ
3. 学会等名 NTTニケーション科学基礎研究所オープンハウス（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大隅 典子
2. 発表標題 先天異常からDOHaDへ: 鍵となる次世代継承エピジェネティクス
3. 学会等名 先天異常学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大隅 典子
2. 発表標題 精神医学研究に対する齧歯類を用いた基礎研究の貢献
3. 学会等名 日本精神神経学会総会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大隅 典子
2. 発表標題 次世代継承エピゲノムと神経発達障害発症リスク(Transgenerational epigenetics: a possible scenario for the onset of neurodevelopmental diseases)
3. 学会等名 第43回日本神経科学大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大輪智雄、田谷真一郎、宮下聡、西岡朋生、中村卓郎、五飯塚僚、貝淵弘三、星野幹雄
2. 発表標題 小脳顆粒細胞におけるMeis1の新規機能による分化制御機構の解明
3. 学会等名 第43回日本分子生物学会年会シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hoshino M (シンポジウムオーガナイザー), Hori K
2. 発表標題 精神疾患関連遺伝子AUTS2の神経発生における機能と病理
3. 学会等名 NPBPPP (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hoshino M, Miyashita S
2. 発表標題 小脳顆粒細胞分化の分子機構と発達期曝露による影響評価
3. 学会等名 日本毒性学会年会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hoshino M, Hori K
2. 発表標題 Neuronal progenitors and synapses in psychiatric disease mouse model
3. 学会等名 日本神経科学学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Arimura N, Okada M, Taya S, Dewa K, Uetake H, Miyashita S, Nishioka T, Inoue YU, Inoue T, Kaibuchi K, Hoshino M
2. 発表標題 DSCAM Regulates Neuronal Delamination Through Suppression of RapGEF2/Rap1 and N-Cadherin
3. 学会等名 Adult Neurogenesis Meeting (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 発生発達期暴露による嗅球神経新生影響～毒性評価としての嗅球利用を探る～
3. 学会等名 第47回日本毒性学会学術年会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 Toward understanding and manipulation of neural bases underlying animal behaviors and psychiatric diseases
3. 学会等名 第43回日本分子生物学会年会シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 Regulatory mechanism of neural stem cells revealed by optical manipulation of gene expressions
3. 学会等名 第11回新潟大学脳研究所共同研究拠点国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 遺伝子発現の光制御技術と幹細胞研究への応用
3. 学会等名 Chemistry For Neuroscience (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Adachi T, Miyashita S, Yamashita M, Shiraishi R, Shimoda M, Owa T, Hoshino M
2. 発表標題 Notch signaling in the cerebellar granule cell development.
3. 学会等名 Society for Neuroscience 2019. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山城邦比古, 青木瞭, 坂本亜沙美, 堀啓, 星野幹雄
2. 発表標題 小脳プルキンエ細胞における自閉症感受性遺伝子AUTS2の役割
3. 学会等名 NEURO2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fumiyasu Komaki
2. 発表標題 Shrinkage priors for nonparametric Bayesian prediction of nonhomogeneous Poisson processes
3. 学会等名 New and Evolving Roles of Shrinkage in Large-Scale Prediction and Inference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko Tominaga, Makiko Taketoshi, Kentaro Tanemura, Takashi Tominaga
2. 発表標題 Optical Recording Methods with Voltage-Sensitive Dye (VSD) Is Useful to Evaluate the Impact of Chemicals on Brain Activities in Acute and Late Effects.
3. 学会等名 IUTOX 15th International Congress of Toxicology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko TOMINAGA, Maki KOIKE-TANI, Tomomi TANI, Takashi TOMINAGA
2. 発表標題 A fast intrinsic optical signal (fios) from unstained hippocampal slice is a novel kind of optical signal: comparison with the voltage-sensitive dye signal
3. 学会等名 Society for Neuroscience (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeru Matsuda, Fumitaka Homae, Hama Watanabe, Gentaro Taga and Fumiyasu Komaki
2. 発表標題 Statistical verification of the common oscillatory behaviors in oxy-Hb and deoxy-Hb time series
3. 学会等名 fNIRS2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Fumiyasu Komaki
2. 発表標題 Improper priors for nonparametric Bayes estimation of Poisson intensity functions
3. 学会等名 CMStatistics2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 T Tominaga, Y Tominaga,
2. 発表標題 Theta phase-dependent competitive long-term potentiation in area CA1 of the hippocampal slices caused by feed- forward and feedback gabaergic control
3. 学会等名 San Diego, Society for Neuroscience, (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 續木大介、多賀徹太郎、渡辺はま、保前文高
2. 発表標題 個性が象る脳梁・時間が育む脳梁
3. 学会等名 次世代脳プロジェクト冬のシンポジウム2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Eunbi P、保前文高
2. 発表標題 絵画呼称時の発話に至る時系列に関する検討
3. 学会等名 次世代脳プロジェクト冬のシンポジウム2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 保前文高
2. 発表標題 乳児がもつ個人性の探求
3. 学会等名 次世代脳プロジェクト冬のシンポジウム2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 保前文高
2. 発表標題 脳の形態形成に現れる乳幼児の個性
3. 学会等名 日本社会心理学会第58回大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡辺はま
2. 発表標題 新生児・乳児を対象としたfNIRS計測
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Taga G, Watanabe H, Homae F
2. 発表標題 General principle and individual difference in dynamics of early development of human brain and behavior (脳と行動の初期発達のダイナミクスにおける一般法則と個性)
3. 学会等名 第27回 日本神経回路学会全国大会 (JNNS2017) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 保前文高、渡辺はま、多賀徹太郎
2. 発表標題 発達脳における機能的クラスタリング
3. 学会等名 第20回日本光脳機能イメージング学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 保前文高
2. 発表標題 発達期における脳と言語 - 普遍性と固有性の共存
3. 学会等名 日本言語学会第154回大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河村康佑、若林明雄
2. 発表標題 他者の痛み観察時の不快感における道具と身体の接触の影響
3. 学会等名 日本基礎心理学会第36回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 永登大和、若林明雄
2. 発表標題 刺激の弁別しやすさが視覚的注意シフト方向の異方性に与える影響.
3. 学会等名 日本基礎心理学会第36回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sekiguchi A, Kotozaki Y, Sugiura M, Nakagawa S, Nouchi R, Miyauchi CM, Takeuchi H, Taki Y, Kawashima R
2. 発表標題 Pre-existing reduced functional connectivity between cognitive control network and salience network enhances PTSD symptoms after a disaster: evidence from a longitudinal
3. 学会等名 Society for Neuroscience 2017(USA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Eito H, Wakabayashi A
2. 発表標題 Uniqueness of the gaze cue in spatial anisotropy of visual attention.
3. 学会等名 Fechner Day 2017 The 33rd Annual meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nakagawa S, Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Sekiguchi A, Kotozaki Y, Miyauchi CM, Iizuka K, Yokoyama R, Shinada T, Yamamoto Y, Hanawa S, Araki T, Kunitoki K, Sassa Y, Kawashima R
2. 発表標題 Gray matter structures associated with loneliness in young adults
3. 学会等名 第1回ヒト脳イメージング研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島 欽一
2. 発表標題 酸素濃度によるヒト神経幹細胞分化のエピジェネティック制御
3. 学会等名 日本薬学会第138年会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島 欽一
2. 発表標題 胎生期エピジェネティック攪乱による遅発性学習記憶障害とてんかん感受性増加のメカニズム
3. 学会等名 第26回海馬と高次脳機能学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今村拓也、佐野坂司、浜崎伸彦、Chai Muh Chyi、五十嵐勝秀、大塚まき、三浦史仁、伊藤隆司、藤井信之、池尾一穂、中島欽一
2. 発表標題 DNA methylomes identify transcription factor-based epigenomic signatures for timed acquisition of differentiation competence in neural stem/progenitor cells towards neuronal and glia lineages
3. 学会等名 4th World Congress of Reproductive Biology (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島 欽一
2. 発表標題 Hypoxia epigenetically confers astrocytic differentiation potential on human pluripotent cell-derived neural precursor cells
3. 学会等名 The 72nd Fujihara Seminar Molecular Mechanism of Molding and Disruption of the Epigenomes Underlying Cellular Community (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今村拓也、山本直樹、阿形清和、中島欽一
2. 発表標題 Regulation of non-coding RNA contributes to the complete cessation of cell proliferation of neuron-like cells
3. 学会等名 第43回内藤コンファレンス (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島 欽一
2. 発表標題 DNA Methylation Regulating Neuron-Glia Fate Switching of Neural Stem Cells
3. 学会等名 第40回日本神経科学大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田泰斗、入江剛史、アデフィンアリア、中島欽一
2. 発表標題 エピゲノム変換を介したミクログリアからニューロンへの直接分化転換機構の解明
3. 学会等名 第11回日本エピジェネティクス研究会年会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hoshino M, Hori K
2. 発表標題 Analysis of Autism Susceptibility Candidate 2 (AUTS2) gene during development
3. 学会等名 第8回新潟大学脳研究所共同研究拠点国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hori K, Nagai T, Shan W, Yamada M, Shiraishi R, Sakamoto A, Kanno K, Abe M, Yamada K, Sakimura K, Hoshino M
2. 発表標題 The role of AUTS2 in synaptic formation and the cognitive brain functions
3. 学会等名 第8回新潟大学脳研究所共同研究拠点国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Arimura N, Dewa K, Okada M, Yanagawa Y, Taya S, Hoshino M
2. 発表標題 The functional analysis of a down syndrome-associated gene in neuronal migration of midbrain neurons
3. 学会等名 第40回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀啓, 永井拓, Wei Shan, 山田光代, 白石玲花, 菅野康太, 坂本亜沙美, 阿部学, 崎村健司, 山田清文, 星野幹雄
2. 発表標題 生後発達期大脳における自閉症感受性遺伝子AUTS2の生理機能の解析
3. 学会等名 第40回日本分子生物学会年会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 星野幹雄
2. 発表標題 各種精神疾患に関連するAUTS2遺伝子
3. 学会等名 第11回 In vivo実験医学シンポジウム: 精神神経疾患における病態解明と治療への応用 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hoshino M
2. 発表標題 Neurogenesis: Specification of Cerebellar Progenitors
3. 学会等名 the 8th International Symposium of The Society for Research on the Cerebellum and Ataxia (Canada) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Inoue YU, Hoshino M, Inoue T
2. 発表標題 Generation of Pax6-IRES-EGFP knock-in mouse via cloning-free CRISPR/Cas9 system for neurodevelopmental researches
3. 学会等名 Society for Neuroscience2017(USA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Inoue YU, Morimoto Y, Inoue T
2. 発表標題 Visualization and humanization of oxytocin receptor expressions in mice; towards the clinical application of oxytocin to autism spectrum disorders
3. 学会等名 第9回 武田科学振興財団薬科学シンポジウム Genome Editing Towards Medicinal Applications (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 天野睦紀、西岡朋生、黒田啓介、吉本潤一郎、観音隆幸、臼井支朗、貝淵弘三
2. 発表標題 KANPHOS (Kinase-Associated Phospho-Signaling) Platform
3. 学会等名 第69回日本細胞生物学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 天野睦紀
2. 発表標題 リン酸化プロテオミクスによるニューロモジュレーターシグナルの解明
3. 学会等名 第39回神経組織培養研究会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Osumi N
2. 発表標題 Paternal aging-induced differential DNA methylation in sperm: possible effects on gene expression and behavior in offspring
3. 学会等名 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Osumi N, Kimura R, Yoshizaki K, Koike T, Oki S, Mochizuki K, Kikkawa T, Inada H, Matsui Y, Kono T
2. 発表標題 Paternal aging-induced differential DNA methylation in sperm: possible effects on gene expression and behavior in offspring
3. 学会等名 Society for Neuroscience2017(USA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大隅典子
2. 発表標題 多様な<個性>を創発する分子・神経・社会基盤の統合的理解を目指して-複合領域研究の推進
3. 学会等名 日本社会心理学会第58回大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Osumi N
2. 発表標題 Paternal aging model of autism: a possible epigenetic mechanism
3. 学会等名 Albert Einstein College of Medicine 廣井研究室セミナー(USA) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kimura R, Yoshizaki K, Koike T, Oki S, Aoki N, Mochizuki K, Kobayashi H, Kikkawa T, Inada H, Matsui Y, Kono T, Osumi N
2. 発表標題 Trans-generational transmission of ASD-like phenotypes possibly via sperm epigenetic alteration caused by paternal age
3. 学会等名 国際自閉症カンファレンス東京2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大隅典子
2. 発表標題 父加齢の次世代マウス行動への影響に関わるエピゲノム機構
3. 学会等名 第47回 日本神経精神薬理学会 合同年会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Osumi N
2. 発表標題 Towards Elucidation of Generative Brain Systems for Individuality
3. 学会等名 第27回日本神経回路学会全国大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大隅典子
2. 発表標題 脳の発生発達と神経新生における脂質栄養：心のレジリエンスのために
3. 学会等名 日本脂質栄養学会第26回大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Osumi N
2. 発表標題 Effect of paternal aging on behavior of offspring in animal models of neurodevelopmental diseases
3. 学会等名 第60回日本神経化学学会大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 生後脳・成体脳ニューロン新生の機能的意義
3. 学会等名 第40回日本神経化学・日本生物的精神医学会シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 遺伝子発現の光制御技術と幹細胞研究への応用
3. 学会等名 第41回日本分子生物学会年会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Osumi N
2. 発表標題 Paternal aging affects offspring's behavior possibly via an epigenetic mechanism involving a transcriptional repressor REST
3. 学会等名 Link_ping University-JSPS Meeting(Sweden)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大隅典子
2. 発表標題 齧歯類を用いた音声コミュニケーション解析と遺伝的・環境的影響
3. 学会等名 日本言語学会第154回大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大隅典子
2. 発表標題 「個性」を科学する：脳・神経系の多様性から「個性」創発の理解へ
3. 学会等名 第116回日本皮膚科学会総会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 遺伝子発現の光制御システムを用いた神経幹細胞・ニューロン新生の制御機構の解析
3. 学会等名 第一回 三融会・武田神経科学シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 Regulatory mechanism of neural stem cells revealed by optical manipulation of gene expressions
3. 学会等名 ConBio2017シンポジウム (3AS09)神経科学研究技術の最前線（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 Regulatory Mechanism of Neural Stem Cells Revealed by Optical Manipulation of Gene Expressions
3. 学会等名 第24回 日本時間生物学会学術大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 遺伝子発現の光操作と神経幹細胞研究への応用
3. 学会等名 細胞を創る研究会10.0 シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 Functional significance of neurogenesis in the postnatal and adult brain
3. 学会等名 第40回日本神経科学大会 シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 Neurogenesis in the postnatal and adult brain
3. 学会等名 第40回日本神経科学大会 ジョセフ・アルトマン記念発達神経科学賞受賞記念講演 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 Regulatory Mechanism of Neural Stem Cells Revealed by Optical Manipulation of Gene Expressions
3. 学会等名 第12回上原国際シンポジウム「Meke Life Visible」シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷 康広
2. 発表標題 霊長類における精神・神経疾患関連遺伝子解析と認知ゲノミクスの展望
3. 学会等名 平成29年度京都大学霊長類研究所共同利用研究会「霊長類における認知ゲノム研究」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郷康広, 佐々木哲也, 中垣慶子, 小賀智文, 辰本将司, 石川裕恵, 臼井千夏, 一戸紀孝
2. 発表標題 自閉症モデルマーマーモセット脳における時空間遺伝子発現解析
3. 学会等名 第7回日本マーマーモセット研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郷康広, 辰本将司, Xu C, Li Q, Efimova O, Liu H, 大石高生, 鶴殿俊史, 山口勝司, 重信秀治, 柿田明美, 那波宏之, Khaitovich P
2. 発表標題 霊長類脳における比較トランスクリプトーム・エピゲノム解析
3. 学会等名 2017年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷康広
2. 発表標題 ゲノムを通して我が身を知る～ヒト集団にみられる「個性」創発の起源に関する論考～
3. 学会等名 日本社会心理学会第58回大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷 康広
2. 発表標題 Spatiotemporal brain transcriptome architecture and application for disease model in marmosets
3. 学会等名 第27回日本神経回路学会全国大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go Y
2. 発表標題 Spatiotemporal brain transcriptome architecture and application for disease model in marmosets
3. 学会等名 第60回日本神経化学学会大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷康広，辰本将司，石川裕恵
2. 発表標題 ロングリード型NGSを用いたニホンザル新規ゲノム配列決定
3. 学会等名 日本進化学会第19回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷康広，辰本将司，石川裕恵
2. 発表標題 ロングリード型NGSを用いたニホンザル新規ゲノム配列決定
3. 学会等名 NGS現場の会第五回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷 康広
2. 発表標題 ゲノムを通して我が身を知る～人とヒトとサルの間にあるもの～
3. 学会等名 愛知高等学校特別講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tominaga T and Tominaga Y
2. 発表標題 Voltage-sensitive dye imaging study of the input-dependent GABAergic control of the paired burst facilitation (PBF) in area CA1 of the hippocampus
3. 学会等名 Society for Neuroscience2017(USA)（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Wakayama Y, Kamada S, Yamada Y, Tominaga T, Kajiwara R
2. 発表標題 Voltage-sensitive dye signal analysis of inhibitory components in mouse perirhinal-entorhinal cortical slices
3. 学会等名 Society for Neuroscience2017(USA)（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 富永貴志
2. 発表標題 「イントロダクション」ワークショップ「個性」創発神経基盤の統合的理解に向けた階層横断的解析
3. 学会等名 生命科学系合同年次大会 ConBio2017（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 富永貴志
2. 発表標題 膜電位イメージングの技術支援：実施例から
3. 学会等名 新学術領域「個性」創発脳の第2回若手の会・技術講習会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 富永貴志, 富永洋子
2. 発表標題 海馬CA1野のペアドバーストファシリテーション (PBF)のGABAergicなフィードフォワード, フィードバック調節：膜電位感受性色素による研究
3. 学会等名 第40回日本神経科学大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉村 弘, 須貝 外喜夫, 加藤 伸郎, 富永 貴志, 富永 洋子, 長谷川 敬展, 姚 陳娟, 赤松 徹也
2. 発表標題 カフェイン投与により誘発されるラット視覚野オシレーションにおけるnon-NMDA受容体とNMDA受容体の相互交錯的関与
3. 学会等名 第40回日本神経科学大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 和歌山 ゆづか, 鎌田 翔仁, 山田 悠太, 富永 貴志, 梶原 利一
2. 発表標題 膜電位イメージングによる嗅周囲皮質の抑制性/興奮性神経活動の層分布解析
3. 学会等名 第40回日本神経科学大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 梶原 利一, 和歌山 ゆうか, 富永 洋子, 富永 貴志
2. 発表標題 神経興奮伝播の促進に関するマウス嗅皮質神経回路可塑性の膜電位イメージング
3. 学会等名 第40回日本神経科学大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 富永貴志, 富永洋子
2. 発表標題 情動認知行動影響の毒性評価における神経回路機能イメージング法を用いた神経基盤解析
3. 学会等名 第44回日本毒性学会学術年会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 富永貴志
2. 発表標題 ゾウリムシと電気生理学
3. 学会等名 日本動物学会第88回大会 シンポジウム「ゾウリムシ研究の新潮流」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Komaki F
2. 発表標題 Information Geometry of predictive densities and its application to Poisson regression
3. 学会等名 Lilac International Conference of Application on Statistics (LICAS 2017)(China)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Komaki F
2. 発表標題 Shrinkage Priors for Poisson-Based Models and Their Applications
3. 学会等名 Joint Statistical Meetings 2017(JSM2017)(USA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shibue R and Komaki F
2. 発表標題 Neural decoding based on an infinite mixture model
3. 学会等名 The 1st International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta 2017)(HongKong) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Komaki F
2. 発表標題 A predictive approach to statistical problems with multiplicity
3. 学会等名 CMStatistics 2017(UK) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 T Sawada, Natsume K
2. 発表標題 The muscarinic acetylcholine receptor subtype involved in the suppression of the epileptic discharges with the carbachol-induced beta oscillation in rat hippocampal slices
3. 学会等名 第40回日本神経科学大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kageyama I, Natsume K
2. 発表標題 The hippocampal beta rhythm and the computational model of it
3. 学会等名 NOLTA2017 Special Sessions (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Dwivedi SK, Koganti N, Shibata T
2. 発表標題 Missing value estimation of sEMG signals using BGPLVM toward control of a multi-fingered prosthetic hand
3. 学会等名 第27回日本神経回路学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Omure Y, Izumi H, Shibata T
2. 発表標題 A Study on Automatic OWAS Classification of the Working Postures of a Caregiver
3. 学会等名 39th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society(Korea) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shibata T, Shibata T
2. 発表標題 A Novel Practical Approach to Prosthetic Control of Continuous Multi-Fingered Kinematics with a Low-Cost Wearable sEMG Device
3. 学会等名 39th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society(Korea) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 T Sawada, Natsume K
2. 発表標題 The muscarinic acetylcholine receptor subtype involved in the suppression of the epileptic discharges with the carbachol-induced beta oscillation in rat hippocampal slices
3. 学会等名 第40回日本神経科学大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kageyama I, Natsume K
2. 発表標題 The hippocampal beta rhythm and the computational model of it
3. 学会等名 NOLTA2017 Special Sessions(Mexico) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 榎屋啓志
2. 発表標題 表現型データ統合データベースJ-Phenomeにおける計測メタデータの整理統合
3. 学会等名 2017年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Masuya H
2. 発表標題 RDF-based integration of phenotype data of experimental animals in Japan
3. 学会等名 NIX-odML Global Workshop & Hackathon 2017 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Owa T, Taya S, Miyashita S, Nishioka T, Kaibuchi K, Hoshino M
2. 発表標題 Role of Meis1 in the cerebellar development .
3. 学会等名 Neuroscience2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nakashima K.
2. 発表標題 Insights into Rett Syndrome using Neural Stem Cells
3. 学会等名 Keystone Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Komaki, F
2. 発表標題 Shrinkage priors for a class of Poisson regression models Computational and Methodological Statistics
3. 学会等名 CMStatistics 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 原 壱
2. 発表標題 生物学的シティズンシップとリスクコミュニケーション
3. 学会等名 科学技術社会論学会第15回年次研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Homaie, F., Watanabe, H., & Taga, G.
2. 発表標題 The characteristics of the cortical functional networks in individual infants
3. 学会等名 The Society for Functional Near Infrared Spectroscopy 2016 Biennial Meeting (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 海馬生後ニューロン新生の破綻と発達障害との関係について
3. 学会等名 発達障害研究所公開セミナー 2016 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 今吉 格
2. 発表標題 遺伝子発現動態の光操作から明らかになる神経幹細胞の制御機構
3. 学会等名 第94回日本生理学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷康広
2. 発表標題 霊長類における精神・神経疾患関連遺伝子解析と認知ゲノミクスの展望
3. 学会等名 京都大学霊長類研究所共同利用研究会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷康広
2. 発表標題 ゲノムを通して我が身を知る ヒトとサルの間にあるもの
3. 学会等名 国立精神・神経医療研究セミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go, Y.
2. 発表標題 Spatiotemporal brain transcriptome architecture in the common marmoset
3. 学会等名 The 6th annual conference of Japan Society for Marmoset Research, Brain/MINDS international symposium. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 郷康広
2. 発表標題 霊長類脳の構造・機能をささえる分子基盤解明にむけたマーモセット全脳遺伝子発現動態
3. 学会等名 革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト・臨床研究グループ分科会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Go, Y.
2. 発表標題 Spatiotemporal gene expression trajectory in the human and non-human ape brains
3. 学会等名 The 6th Joint CIN-NIPS International Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Wakabayashi, A.
2. 発表標題 Individual differences in cognitive styles affected from prenatal hormonal condition
3. 学会等名 Biocog Research Trends (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉崎 嘉一、小池 佐、木村 龍一、吉川 貴子、沖 真弥、稲田 仁、松居 靖之、河野 友宏、大隅典子
2. 発表標題 父加齢が次世代の行動に影響を与えるエピジェネティックなメカニズム:新たな自閉スペクトラム症の提案
3. 学会等名 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大隅典子
2. 発表標題 個性の生まれる源に関する生物学的考察
3. 学会等名 JST CREST「認知ミラーリング」キックオフシンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大隅典子
2. 発表標題 父加齢による次世代個体の行動への影響:エピジェネティックな背景と神経発達障害モデルの可能性
3. 学会等名 第90回日本薬理学会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木村龍一, 吉崎嘉一, 小池佐, 小池航平, 吉川貴子, 稲田仁, 松居靖久, 河野友宏、大隅典子
2. 発表標題 父加齢による精子のDNAメチル化変化は仔の行動や遺伝子発現に影響する
3. 学会等名 第39回分子生物学会年会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kimura R., Yoshizaki K., Koike T., Koike K., Kikkawa T., Inada H., Matsui Y., Kono T. and Osumi N.
2. 発表標題 Paternal aging-induced differential DNA methylation in sperm: possible transgenerational effects on gene expression and behavior in offspring
3. 学会等名 Neuroscience 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Osumi N.
2. 発表標題 Paternal aging-induced differential DNA methylation in sperm: possible transgenerational effects on gene expression and behavior.
3. 学会等名 Genome Imprinting Epigenetics and Physiologizal Functions (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Osumi N.
2. 発表標題 Paternal aging affects offspring's behavior: its significance and possible underlying transgenerational epigenetics.
3. 学会等名 The 19th KSBNS Annual Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tominaga T and Tominaga Y.
2. 発表標題 Activation of GABAA-receptors by high-frequency stimuli causes paired burst facilitations in area CA1 of the hippocampal slice
3. 学会等名 Neuroscience 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kajiwara R, Wakayama Y, Tominaga Y, Tominaga T
2. 発表標題 Network plasticity facilitating the neural excitation propagation between the perirhinal and entorhinal cortices as revealed by voltage-sensitive dye imaging
3. 学会等名 Neuroscience 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 富永 貴志, 富永 洋子
2. 発表標題 「使える」膜電位感受性色素による神経回路解析法 “Conventional” voltage sensitive dye imaging of neural circuit activity 公募シンポジウム「神経活動イメージングの最先端：新規ツールとその活用
3. 学会等名 第54回日本生物物理学会年会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 有村奈利子, 出羽健一, 岡田茉莉, 柳川右千夫, 田谷真一郎, 星野幹雄
2. 発表標題 中脳神経細胞の細胞移動におけるダウン症関連因子の機能解析
3. 学会等名 第39回日本分子生物学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 足立透真, 宮下聡, 井上貴文, 星野幹雄:
2. 発表標題 小脳顆粒細胞における分裂面と娘細胞の運命決定メカニズムの解析
3. 学会等名 第39回日本分子生物学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大輪智雄, 田谷真一郎, 宮下聡, 西岡朋生, 中村卓郎, 五飯塚僚, 貝淵弘三, 星野幹雄
2. 発表標題 Meis1の小脳顆粒細胞における多段階発生制御
3. 学会等名 第39回日本分子生物学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 出羽健一, 有村奈利子, 田谷真一郎, 小泉修一, 星野幹雄
2. 発表標題 小脳興奮制シナプス形成におけるダウン症関連分子の機能解析
3. 学会等名 第59回日本神経化学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山城邦比古, 青木瞭, 坂本亜沙美, 堀啓, 星野幹雄:
2. 発表標題 小脳発生における自閉症感受性遺伝子Auts2の機能解析
3. 学会等名 第59回日本神経化学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大輪智雄, 田谷真一郎, 宮下聡, 西岡朋生, 中村卓郎, 五飯塚僚, 貝淵弘三, 星野幹雄
2. 発表標題 Meis1による顆粒細胞の増殖・分化の制御機構の解明
3. 学会等名 第59回日本神経化学学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 井上-上野由紀子, 井上高良
2. 発表標題 クローニングフリーCRISPR/Casシステムによるノックインマウス作製
3. 学会等名 第39回日本分子生物学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平賀孔, 井上-上野由紀子, 星野幹雄, 井上高良
2. 発表標題 CRISPR/Cas9システムを用いた複数クラシックカドヘリン遺伝子ノックアウトマウスの作出
3. 学会等名 第39回日本分子生物学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Matsumoto Y, Asaba A, Kanno K, Kikusui T, Okanoya K
2. 発表標題 Female preference for male 's vocalizations in C57BL6/J mice
3. 学会等名 日本動物心理学会第76回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本結, 浅場明莉, 菅野康太, 菊水健史, 本田学, 岡ノ谷一夫
2. 発表標題 社会的場面におけるマウスの発声型とその機能
3. 学会等名 日本動物行動学会大35回大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 大隅 典子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東海教育研究所	5. 総ページ数 120
3. 書名 望星	

1. 著者名 熊谷 晋一郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 280
3. 書名 当事者研究 等身大の〈わたしの〉発見と回復	

1. 著者名 井上高良, 星野幹雄	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 7
3. 書名 3.4章「動物遺伝子の発現」動物の事典	

1. 著者名 井上高良, 星野幹雄	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 9
3. 書名 3.5章「遺伝子の発現調節」	

1. 著者名 *Imayoshi, I., Yamada, M. and Suzuki, Y.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer, Singapore	5. 総ページ数 3
3. 書名 Make Life Visible	

1. 著者名 大隅 典子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 脳の誕生	

1. 著者名 郷康弘、藤山秋佐夫、阿形清和、松沢哲郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 科学（岩波書店）	5. 総ページ数 2
3. 書名 チンパンジー親子トリオのゲノム解析	

1. 著者名 原壘・山内保典（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 185
3. 書名 「特集 = 研究公正とRRI」、科学技術社会論学会編集委員会編『研究公正とRRI・科学技術社会論研究第14号』	

1. 著者名 原壘（翻訳）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 17
3. 書名 「欧州科学財団、欧州科学アカデミー連合「公正な研究のための欧州行動規範」、科学技術社会論学会編『研究公正とRRI・科学技術社会論研究第14号』	

1. 著者名 原壘・山内保典	4. 発行年 2017年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 4
3. 書名 「研究公正とRRI：特集にあたって 科学的合理性の再考」、科学技術社会論学会編『研究公正とRRI・科学技術社会論研究第14号』	

1. 著者名 大隅典子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 12
3. 書名 脳の形成と自閉スペクトラム症、テルモ生命科学芸術財団「生命科学DOKI DOKI研究室」（監修）いのちの不思議を考えよう3 脳の神秘を探ってみよう 生命科学者21人の特別授業症	

〔産業財産権〕

〔その他〕

多様な「個性」を創発する脳システムの統合的理解（領域略称「個性」創発脳）
<http://www.koseisouhatu.jp>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	富永 貴志 (Tominaga Takashi) (20344046)	徳島文理大学・神経科学研究所・教授 (36102)	
研究分担者	保前 文高 (Homaе Fumitaka) (20533417)	東京都立大学・人文科学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	若林 明雄 (Wakabayashi Akio) (30175062)	千葉大学・大学院人文科学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	柴田 智広 (Shibata Tomohiro) (40359873)	九州工業大学・大学院生命体工学研究科・教授 (17104)	
研究分担者	郷 康広 (Go Yasuhiro) (50377123)	大学共同利用機関法人自然科学研究機構（新分野創成センター、アストロバイオロジーセンター、生命創成探究・生命創成探究センター・特任准教授 (82675)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	今吉 格 (Imayoshi Itaru) (60543296)	京都大学・生命科学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	駒木 文保 (Komaki Fumiyasu) (70242039)	東京大学・大学院情報理工学系研究科・教授 (12601)	
研究分担者	星野 幹雄 (Hoshino Mikio) (70301273)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・神経研究所 病態生化学研究部・部長 (82611)	
研究分担者	原 塑 (Hara Saku) (70463891)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	中島 欽一 (Nakashima Kinichi) (80302892)	九州大学・医学研究院・教授 (17102)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	鈴木 大介 (Suzuki Daisuke)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 第1回国際シンポジウム「Toward Understanding "INDIVIDUALITY"」	開催年 2018年～2018年
---	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
タイ	チェラロンコーン大学			
インド	IIIT-Delhi			
英国	エディンバラ大学			
カナダ	トロント・マウントサイナイ病院	フレフェルドタネンバウム研究所	トロント大学	
米国	ウッズホール海洋生物学研究所	サンディエゴ大学		
ドイツ	ドレスデン工科大学	DKFZ		